

長野県植物誌のためのデータ入力

冒頭の金井論文にも述べられているように、昭和57年末に信州大学教養部生物学研究室に、長野県植物誌編纂のために、コンピュータおよびその付属機器一式が設置された。この事業は当初からコンピュータによるデータ処理をめざしていたが、データの作成は、カード作成→カードパンチ（正副）→科博へ移送→科博で入力および出力とといった手数をふんでおこなわれた。そのため、データの蓄積は、5年目の半ばで2万点余という状況であった。

ところで、コンピュータ設置に伴い、入力形式は従来のカード形式と同じであるが、カードのパンチを省略して直接に標本ラベルまたはデータカード、あるいは調査票からの入力が可能となった。その入力スピードは1時間当たり100は越える。事実新方式稼働後、2ヶ月間で約1.5万のデータが入力された。分布図の作成も近い将来、ある程度は可能になるものと思われる。委員会のメンバーの皆さんに自らのデータを自らの手で入力して頂けるよう次に入力手順を記しておく。

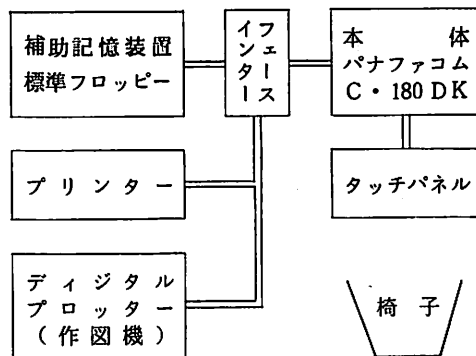
1. データベース

(1) データカードまたは標本ラベルの場合、 入力

(2) 調査票の場合 入力

2. 入力の手順（入力はタッチパネルからおこなう）

- 本体・インターフェース・補助記憶装置・プリンターの stand by スイッチを入れる。
- IPL ミニフロッピーを本体に入れる。
- 本体の POWER を ON にして待つ。
- 機械の要求に応じ、日付を入力 、時間を入力 (はタッチパネルのキーを表わす)



コンピュータおよび付属機器の配置

- READY と表示されたら、 と入れ、
- ワークファイルは？ときいてくるので、、または と入力し、
- データカードと同一の形式が画面上に出るので、データを入力する。同一場所、同一期日の標本または調査票の場合は、和名を頭から6文字入力すれば他のデータは自動的に入力されるようになっている。

3. 終了の手順

- READY と表示され、続いて を押すと OFF/22 と表示される。
- を押すと一瞬画面が光って消える。
- スイッチをすべて OFF にする。ただし、本体の POWER スイッチは絶対にふれないこと。

ソフトウェア担当の生物学教室の山本君と医学部の三沢君、編纂委の小林さんと丸山さんには改めて御礼を申し上げたい。
(清水建美)